

【素 案】

兵庫県地域創生戦略

“私が輝く ふるさと兵庫”



(令和 2 年 3 月策定)

兵 庫 県

[目 次]

I はじめに

- 1 策定の経緯 1
- 2 戦略の性格・構成 1

II 地域創生をめぐる現状と課題

- 1 出生数の減少 4
- 2 大都市への人口集中 5
- 3 県内の人口偏在の顕在化 6

III 第2期地域創生戦略の目指す姿

- 1 地域創生を取り巻く時代潮流 7
 - 2 第2期地域創生戦略の理念 8
- 当面5年間（2020～2024年度）の施策体系【案】 9
- 地域プロジェクト（素案） 13

IV 地域創生の実現に向けた総合的な対策

V 2025年の人口展望

VI 戦略の推進体制

【参考】県民局地域創生戦略

【参考】第一期地域創生戦略の進捗状況

作成中

I はじめに

1 策定の経緯

(第一期地域創生戦略(2015～2019)の策定)

今後 100 年間は人口減少が続くと予測されるなか、東京一極集中は止まることを知らず、地域偏在が著しくなっている。こうしたなか、人口が減っても地域の豊かさを維持し、将来への希望が持てる地域をつくるのが大きな課題となっている。

このため、兵庫県は「地域創生」を県政の基本に位置付けるとともに、継続的に取り組む姿勢を明らかにするため、地域創生の基本理念やその実現に向けた戦略の策定等県の責務等を定めた「兵庫県地域創生条例(平成 27 年兵庫県条例第 4 号)(以下、第一期戦略)」を全国に先駆けて制定した。

さらに、同年10月には、2060年における兵庫県の目指すべき姿を展望しつつ、①自然増対策(子ども子育て対策)、②自然増対策(健康長寿対策)※、③社会増対策、④地域の元気づくりの3つの戦略目標と、2020年までの5年間で取り組むべき対策を定めた「兵庫県地域創生戦略(以下、地域創生戦略)」を策定した。地域創生戦略の推進に当たっては、年度毎にアクション・プランを策定し、施策や事業毎に設定した指標に基づき、進捗状況を管理してきた。

※平成30年3月に改訂し、自然増対策(健康長寿対策)を追加

(第二期地域創生戦略の策定)

今般、第一期戦略が計画期間を満了する。これまでの5年間の評価検証、新たな時代潮流を踏まえ、第一期戦略での地域創生の取組を継続するとともに、兵庫の強みである地域の多様性を生かした取組を推進するため、今後5年間の目標及び取り組むべき施策を定めた、第二期地域創生戦略(以下、本戦略)を策定する。

2 地域創生戦略の性格・構成

(1) 性格

本戦略は、兵庫県地域創生条例第6条に基づく兵庫県地域創生戦略である。

戦略には、同条第2項に規定する次の事項を定める。

- ア 県の人口の現状及び将来の展望に関する事項
- イ 地域創生のための基本的な目標に関する事項
- ウ 地域創生のための施策の推進に関する基本的な方針
- エ その他、地域創生のための施策の推進に関する重要事項

また、本戦略をまち・ひと・しごと創生法第9条に規定する都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略として位置付ける。

(2) 構成

本戦略では、第一期戦略で定めた2060年における兵庫の姿を継承しつつ、「地域の豊かさづくり」及び「人口減対策（社会増対策、自然増対策＜子ども・子育て対策、健康長寿対策＞）」の2つの柱と4つの戦略目標で構成する。

さらに、戦略目標の実現に向け、目指すべき兵庫の姿を7つの重点目標とし、2025年までの5年間で達成すべき重点指標と取り組むべき施策の方向性を定める。「地域の豊かさづくり」では、全県的に取り組む施策のほか、7つのゾーンに分け、地域の特性や強みを活かした先導的なプロジェクトを推進する。

【図表 1 第2期兵庫県地域創生戦略の構成】

戦略目標		重点目標
【目標Ⅰ】 地域の豊かさづくり		① あらゆる産業が元気な兵庫をつくる
		② 内外との交流が活力を生む兵庫をつくる
		③ 地域の特性を活かし、地域の未来をつくる (地域プロジェクト)
人口対策		
【目標Ⅱ】 社会増対策		④ 自分らしく働ける兵庫をつくる
		⑤ 豊かな文化が息づき、安全安心でにぎわいあふれる兵庫をつくる
自然増対策	【目標Ⅲ】 子ども子育て対策	⑥ 結婚から子育てまで希望が叶う兵庫をつくる
	【目標Ⅳ】 健康長寿対策	⑦ 生涯元気に活躍できる兵庫をつくる

(3) 計画期間

令和2（2020年）年度から令和6（2024）年度 [5か年]

【参考】地域創生の基本理念（兵庫県地域創生条例第2条）

- ① 少子高齢化及び人口の減少を抑制し、県民が将来への希望を持つことができる社会を実現し、県内の各地域で活力を生み出していくこと。
- ② 大都市、地方都市、中山間地域等が産業、生活等の機能の分担をしながら、活力を持って自立できるよう、人、もの、資本、情報等が活用される環境をつくり、その活発な環流を図ること。
この場合においては、県民の生活に必要な福祉、消費、交通等のサービスごとに圏域が形成される構造を目指すものとする。
- ③ 地域の豊かな自然環境、歴史文化等により育まれた人としての資質、地域社会での支え合い及びふるさとへの愛着に立脚した生活と心のゆたかさを実現すること。
- ④ 大規模な地震等による災害への備えを整えるとともに、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承し、安全で安心できる社会を築いていく災害文化を発展させること。

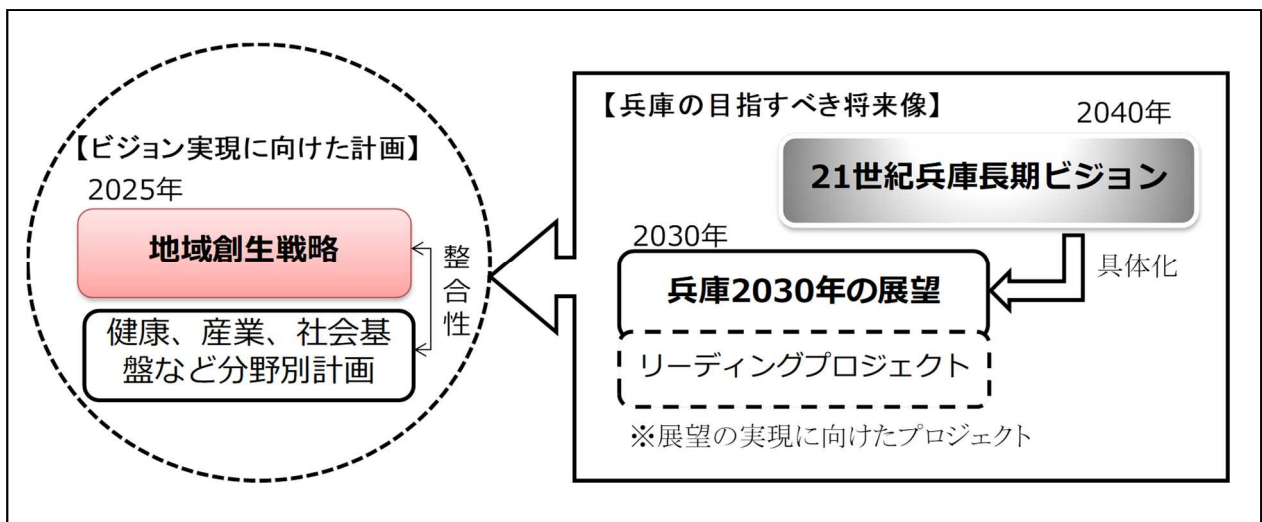
(4) 21世紀兵庫長期ビジョンと地域創生戦略の関係

「21世紀兵庫長期ビジョン（以下、全県ビジョン）」は、2040年に目指すべき社会像とその実現のための指針をとりまとめたものであり、地域創生戦略は全県ビジョンの実現に向けた計画の一つとして位置付けられる。

また、「兵庫2030年の展望」は、全県ビジョンの展望年次（2040年）より手前の2030年に焦点を合わせ、目指す姿をより具体的に示したものであり、本県ビジョンを補完し、一部を構成するものと位置付けられる。

このため、2024年度までを計画期間とする本戦略は、「兵庫2030年の展望」を実現するための、前半の5か年の実施計画としての性格を有するとともに、各分野別の計画との整合性を図っていくことが求められる。

【図表2 21世紀兵庫長期ビジョンと地域創生戦略の関係】



なお、持続可能な開発のための目標(SDGs)は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指し、全てのステークホルダーが参加し、社会、経済、環境対策に総合的に取り組むものである。

地域創生戦略は、地域が将来にわたって活力を維持できるよう、行政、住民、事業者が連携して、地域の元気づくり、社会増対策、自然増対策に総合的に取り組むものであり、SDGsの理念を具体化するものである。

Ⅱ 地域創生をめぐる現状と課題

第一期戦略では、人口減少と東京一極集中という構造的な課題に対応するため、自然増対策として、子ども子育て対策と健康長寿対策、東京一極集中の是正を目指す社会増対策、地域の元気づくりの4つの対策に取り組んできた。

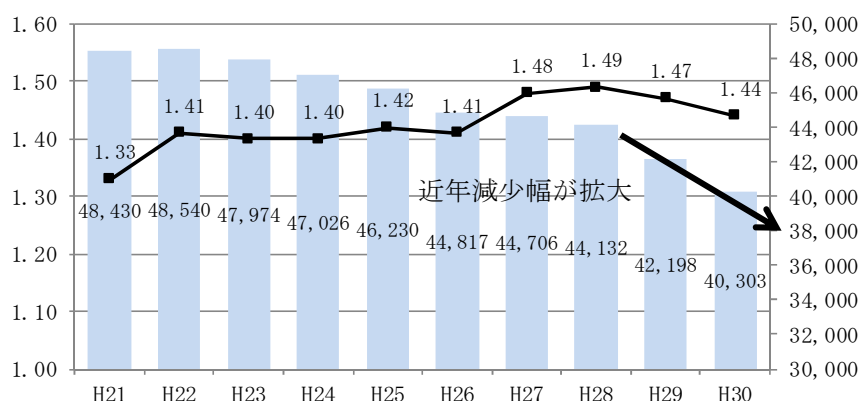
この間、20歳代の若者を中心とする流出超過、女性人口の減少と50歳時未婚率の上昇に伴う出生数の減少が大きな課題として顕在化した。また、大都市圏では人口増に転じている自治体がある一方で、多自然地域では人口減少が急速に進み、特に合併市町の旧役場付近ではにぎわいが失われるなど、地域間で、その影響や課題が異なってきている。

1 出生数の減少

- ・平成29年以降、出生数の減少幅が拡大
- ・①少子化による20～30歳代の女性人口の減少、②20歳代前半の女性の転出超過の2つの人口的な要因と、50歳時未婚率の上昇が主に影響
- ・一方、初婚年齢や第一子平均出産年齢はここ数年上昇が止まる
- ・女性が活躍できる就業の場の創出や官民連携による結婚のきっかけづくり等が必要

【図表1 本県の出生数の推移】

(出典：県統計課「兵庫県人口推計」)



【図表2 本県の結婚・出産の状況】(出典：県統計課「兵庫県人口推計」、総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」)

区分	H12年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
20・30歳代女性数	777,321	640,110	620,210	601,934	586,957	573,747
50歳時未婚率	.8	—	14.3	—	—	—
初婚年齢	27.0	29.3	29.3	29.4	29.4	29.4
第一子平均出産年齢	8.1	30.6	30.7	30.7	30.7	—

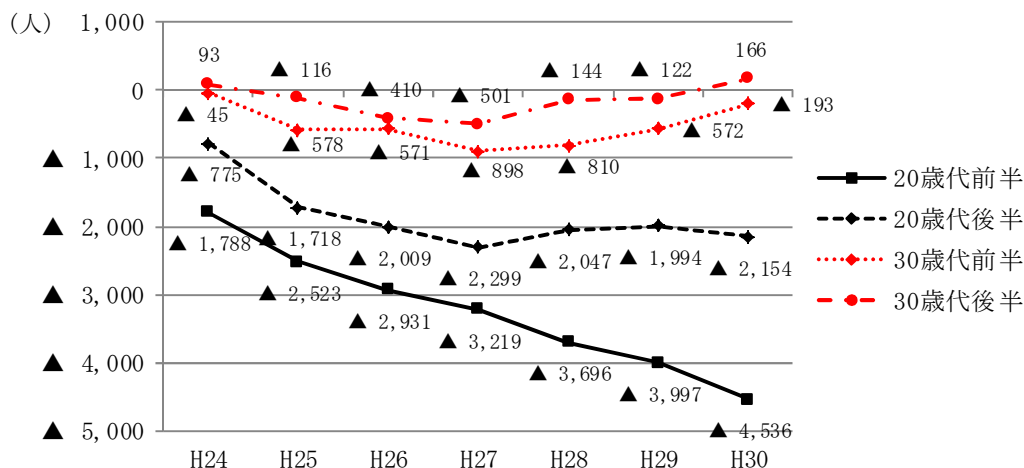
【図表3 20歳代の女性の転入超過の状況】(出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H26
20～24歳	▲ 778	▲ 855	▲ 1,098	▲ 1,353	▲ 1,668	▲ 890
25～29歳	▲ 869	▲ 1,073	▲ 871	▲ 878	▲ 936	▲ 67
合計	▲ 1,647	▲ 1,928	▲ 1,969	▲ 2,231	▲ 2,604	▲ 957

2 大都市への人口集中

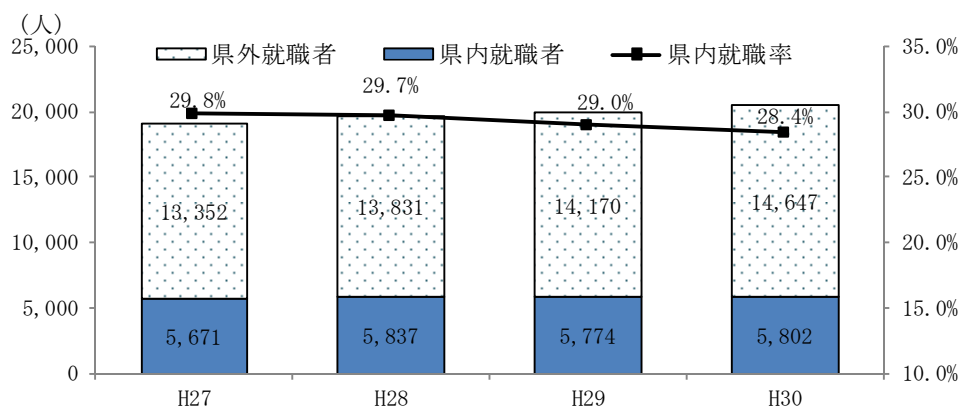
- ・就職期に当たる20歳代前半の転出者は、平成26年からの4年間で1.6倍増
- ・企画、広報等の事務系職種は、本社機能が集積する東京や大阪に集中しており、地元就職を希望しても、やむなく県外に転出している現状。地元企業の認知不足とあわせて、県内就職率は3割弱で推移
- ・一旦東京に転出すると転職先も東京が中心、兵庫の企業情報や生活情報が不足
- ・地元企業の情報発信に加え、若者や女性が望む就業の場の創出や起業・創業の促進が必要

【図表4 20歳代・30歳代の転出超過数の推移】(出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」)



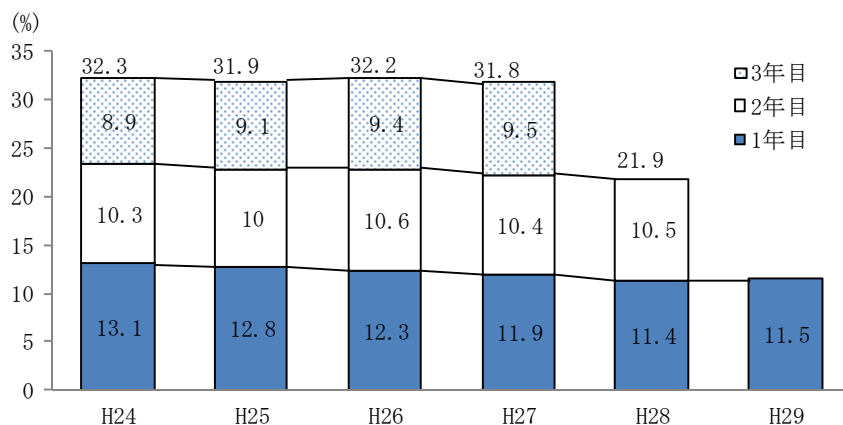
【図表5 県内大学卒業者の県内企業就職率の推移】

(出典：県大学課)



【図表6 就職後3年以内離職率の推移(大学卒 全国)】

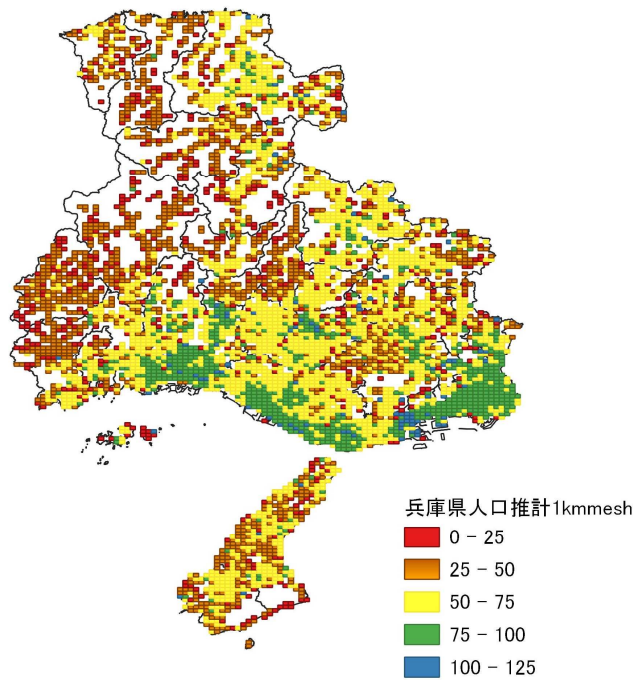
(出典：厚生労働省：新規学卒者の離職状況)



3 県内の人口偏在の顕在化

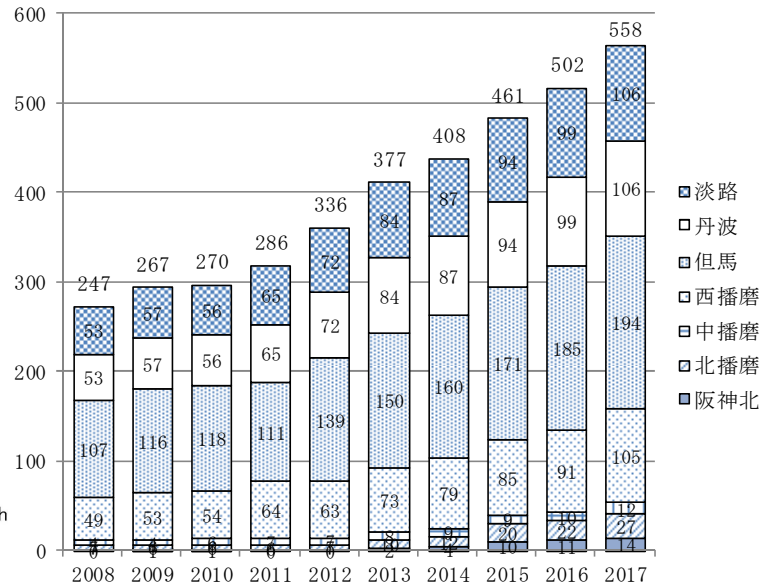
- ・ 県内でも人口偏在が顕在化。2050年には瀬戸内海臨海地域以外は人口が激減
- ・ 合併市町では、特に旧役場の所在地周辺が疲弊し、人口が減少
- ・ 小規模集落が10年間で倍増、こうした集落の再生が喫緊の課題
- ・ 地域の将来像を共有するとともに、地域の強みを活かした地域活性化策が必要

【図表7 2050年の人口推計(1kmメッシュ)】



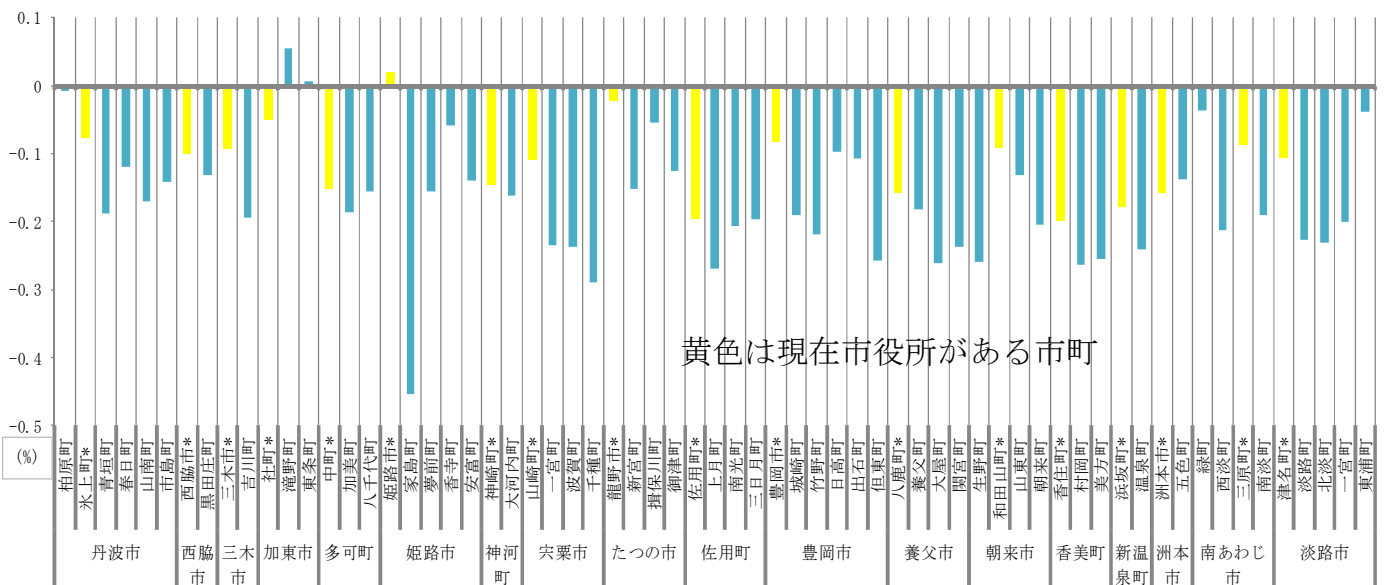
(出典：国土地理院「国土数値情報」1kmメッシュ別将来推計人口を基に、地域創生課作成)

【図表8 小規模集落数の推移】



(出典：県地域振興課)

【図表9 合併した市町における平成12年から平成27年までの人口増減率】



(出典：総務省「国勢調査」を基に県地域創生課作成)

Ⅲ 第2期地域創生戦略の目指す姿

1 地域創生を取り巻く時代潮流

(1) 地域経済を巡る環境の変化

資本集約型経済から知識集約型経済へと変化するなか、世界の成長を取り込むべく、海外市場に挑戦する中小企業が増えており、高い専門性や技術を持った人材の必要性が高まっている。また、日本食ブームを背景に、安全・安心で高品質な兵庫の農林水産物の輸出は増加しており、地域と世界が直接つながる時代を迎えている。

日用品や食料品のネット販売が拡大している一方で、商店街では、店舗の入れ替えや事業継承ができておらず、地域から商業機能やコミュニティ機能が失われつつある。

(2) 人口減少社会を乗り越える革新的技術

先端技術を活用し、経済の活性化と社会的課題の解決を両立する「Society5.0」の実現を目指した取組が進められている。自宅からバス停等までのラストワンマイルをつなぐ自動運転や、ビッグデータによる農産物の栽培管理、無人営業の店舗、遠隔診断・治療等は、少子高齢化が進む地方にこそ導入を推進する必要がある。

(3) 新たな働き方の普及

労働生産性を高めるとともに、育児や介護などのニーズに対応できるよう、時間や場所を問わない多様で柔軟な働き方を推進する「働き方改革」が進められている。副業や兼業の容認、テレワーク、オンラインで仕事の依頼・受注を行うクラウドソーシングなど、新たな働き方が普及しつつある。さらに、拡張現実(VR)や仮想現実(AR)や活用した職業訓練を導入する企業も出てきている。

また、最初から起業・創業を選択する者や、大企業ではなく即戦力として活躍できるベンチャー企業に就職する者など、若者の就業意識が変わりつつある。

(4) 労働力不足を補う新たな動き

労働力不足が深刻となるなか、都市圏ではコンビニや飲食業などの小売業を、地方圏では工場等の生産を外国人技能実習生や留学生が支えている。あわせて、AIやRPA等による生産性向上が進められているが、こうした専門的技術を持つ者の日本人の不足を補うため、高度な専門性を持つ外国人の活躍が期待されている。今後も外国人の増加が見込まれているが、単なる労働力ではなく、地域活動の担い手として共生していくことが求められている。

(5) 国内外の交流人口の拡大

2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズ2021関西、2025年の大阪・関西万博の開催を機に、国内外から多くの観光客が関西・兵庫を訪れると予測される。観光客の志向が、モノ消費からコト消費へとシフトするなか、地域資源を活かした体験型・滞在型ツーリズムを促進し、更なる交流人口の拡大につなげていく必要がある。

2 第2期地域創生戦略の基本理念

(地域創生の実現に向けた動きの芽生え)

第一期戦略では、2060年の人口450万人維持を目指し、総合的な施策を展開したものの、若年層を中心とする東京一極集中や出生数の減少は依然拡大している。

しかし、こうした中でも地方回帰の動きが芽生えている。ひょうごカムバックセンターでの移住相談を通じて移住した者の多くが20～30歳代の若者となっている。地方都市や多自然地域では、UJIターンで新規就農する若者やデザイナーとして地場産業に挑戦する若者も増えてきている。また、東京圏や大阪への流出が拡大する一方で、県内大学生の多くが兵庫での就業を希望するなど、地域志向が鮮明になりつつある。

(地域が持つポテンシャルを活かし地域創生を実現する)

地域創生は、人口が減少しても地域活力を維持し、県民が将来への希望を持てる地域の実現を目指すものである。兵庫で働きたい、ふるさとで子どもを育てたい、豊かな自然に囲まれ暮らしたいという夢や希望が叶い、自分らしく活躍できる地域をつくるのが、そのゴールである。

そのための近道はない。都市に近接する豊かな自然、地域に根付いている多彩な産業、歴史文化、五国の気候や風土が育む多様な食といった、他の地域にはない兵庫のポテンシャルを最大限に活かした取組を一つひとつ積み重ねていかねばならない。

(一人ひとりが望む働き方や暮らしが実現できる「私が輝く ふるさと兵庫をつくる」)

そこに暮らす一人ひとりが、いきいきと輝ける地域だからこそ、人が集い、まちににぎわいが生まれ、豊かな社会が形成される。

本戦略は、第一期戦略では十分に対応できなかった地域の個性や強みを活かした取組を、「地域の豊かさづくり」として重点的に推進し、人口の社会増や自然増につなげていくことを目指していく。

以上を踏まえ、五国の多様性を生かし、一人ひとりが望む働き方や暮らしが実現できる舞台、「私が輝く ふるさと兵庫」をつくることを基本理念とし、地域創生の実現に向けた、総合的な施策を展開する

私が輝く ふるさと兵庫をつくる

地域の豊かさづくり

戦略目標Ⅰ 地域の豊かさづくり

重点目標1：あらゆる産業が元気な兵庫をつくる

（1）兵庫の強みを活かした産業競争力の強化

①次世代産業の創出

- ・科学技術基盤の産業利用の更なる促進
- ・最先端機器の相互利用による技術・開発支援
- ・成長が見込まれる先端分野への参入促進
- ・産学官連携による研究開発の支援

②世界で活躍できる中小企業の創出

- ・産学官連携による研究開発の支援（再掲）
- ・新事業展開を支える経営革新の支援
- ・中小企業等に対する多様な金融支援
- ・ジェトロ、JICA等と連携した海外事業展開支援

③情報通信・対事業所サービスの育成・強化

- ・IT関連事業所等の開設支援
- ・生産性向上等に資するAI・IoT、ロボット等の導入支援

④地域産業の振興

- ・地場産業の新ブランド創出、国内外の販路開拓
- ・まちづくりと一体となった商店街の再編(再掲)
- ・空き店舗を活用した新規出店、事業継続支援(再掲)
- ・子育て支援施設の設置など、地域コミュニティの核としての機能発揮(再掲)

（2）企業立地・投資の促進

①ニーズを踏まえた戦略的な企業等の誘致促進

- ・立地促進に向けたインセンティブの強化
- ・市町との連携による産業団地の開発推進
- ・インバウンドの増加を見据えた宿泊施設やスポーツ施設等の立地促進

②外国・外資系企業の立地・定着の促進

- ・産業立地条例による立地インセンティブの強化
- ・アジアなど新興国等の経済交流の強化

（3）起業・創業の更なる支援

①多様な主体による起業・創業の促進

- ・立ち上がりから販路開拓まで一貫した支援体制の構築
- ・外国人の起業環境の創出
- ・成長可能性が高い起業家への集中的な支援

②起業家育成環境の創出

- ・若年層の起業マインドの醸成
- ・起業フェアひょうごを核とした、起業家相互の交流やビジネスマッチングの促進

（4）農林水産業の競争力強化

①都市近郊の立地を活かした農業の更なる展開

- ・施設野菜や果樹の生産拡大等の都市近郊農業の推進
- ・基幹的農業法人の育成
- ・次世代施設園芸など農業のスマート化の推進

②畜産物のブランド化と生産力の向上

- ・畜産経営体の大規模化
- ・子牛の育成、繁殖経営サポート体制の確立
- ・国内外の消費者等へのPRの推進
- ・鶏肉や豚肉など高品質な畜産品の生産推進

③収益性の高い林業の推進

- ・民間部門の木造木質化等県産木材の利用促進
- ・CLTなど新たな木材需要の創出
- ・県産木材供給体制の強化、低コストモデルの構築

④水産業の経営強化

- ・栄養塩の供給促進、藻場干潟等の漁場環境の改選
- ・新たな放流魚種の開発等効果的な栽培漁業の推進
- ・スマート水産業の推進

⑤兵庫の食文化の発進

- ・マーケットの発想によるブランド化、6次産業化
- ・企業や大学との連携による新商品等の開発
- ・国内外市場の戦略的な開拓

重点目標2：内外との交流が活力を生む兵庫をつくる

（1）交流人口の拡大

①地域資源を活かした滞在・周遊型ツーリズムの促進

- ・テーマやターゲットを明確にした観光プロモーションの展開
- ・外国人旅行者向け体験プログラム・ツアーの創出
- ・広域観光周遊ルートの形成促進

②観光客受入基盤の整備

- ・多言語案内やキャッシュレス化など利便性の向上
- ・インバウンドの増加を見据えた宿泊施設やスポーツ施設等の立地促進（再掲）
- ・国際観光芸術専門大学等と連携したツーリズム人材の育成

（2）移住・定住の促進

①移住・定住希望者への対応強化

- ・移住・しごと相談体制等の充実
- ・SNSやラジオなど知媒メディアによる情報発信の強化

②空き家などの有効活用

- ・都市部の空き家の有効活用の支援
- ・空き家の掘り起こしと流通モデルの構築
- ・古民家の活用による景観・まちなみ保全
- ・シェアハウスなど多自然地域での空き家活用の促進

（3）地域にゆかりのある人（関係人口）の創出・拡大

①二地域居住・都市農村交流の促進

- ・NPOや大学等による都市農村交流への支援
- ・農林漁業体験民宿の整備支援
- ・多自然地域での空き家活用の促進（再掲）
- ・ひょうごe-県民制度を活用した情報発信の強化

②地域再生大作戦の展開

- ・集落を維持・継続するための構想づくりへの支援
- ・地域おこし協力隊や県版地域おこし協力隊の活動促進
- ・大学生等の地域再生活動拠点整備への支援

- ・ふるさと応援交流センターの集落と都市のマッチングの推進

(4) 交流を支える交通基盤の充実

- ①基幹道路ネットワークの構築
 - ・高規格幹線道路等の整備推進
- ②空港の有効活用・利便性向上
 - ・関西、大阪、神戸空港、但馬空港の利用促進

重点目標 3：地域の特性を活かし、地域の未来をつくる

[地域プロジェクトの推進]

- (1) 令和の「御食国」再興“食文化都市”プロジェクト（淡路～神戸～東播磨）
 - ・御食国淡路島の多彩な食材や食文化の発信、若手料理人材の育成、フードツーリズム等、食を核とした地域活性化の推進
- (2) 航空宇宙など先端産業を担う理系人材集積プロジェクト（東播磨～西播磨）
 - ・兵庫の先端科学技術基盤を活かし、航空宇宙産業への進出や企業と大学の共同開発を通じて理系人材や高度人材の県内集積・定着を促進
- (3) 一日生活圈を維持する兵庫楽居生(ライフ)プロジェクト（西播磨～但馬南部）
 - ・コンビニなどの店舗を核に、地域コミュニティを再構築し、生活圈を維持する新たなモデル事業を実施

(4) 播磨まるごとオープンファクトリー化プロジェクト（東播磨・北播磨・西播磨）

- ・首都圏デザイン学校と連携した若手デザイナー育成、世界的デザイナーとのコラボレーション、体験ツーリズムなど、地場産業の新たな付加価値の創出

(5) 但馬ブランドを世界に直接つなげる新たな働き方プロジェクト（但馬地域）

- ・山陰海岸ゾウパーク、但馬牛システム、コウリノ野生復帰、国際観光芸術専門職大学の開校など、但馬ブランドを世界に直接発信するため、新たな働き方を実践

(6) 二地域居住・都市農村交流推進プロジェクト（丹波地域・阪神北地域・神戸地域）

- ・週末に農業を楽しむ生活やアグリツーリズム、ふるさと意識を醸成する学びの場など、都市農村交流・二地域居住の拠点形成

(7) 阪神・淡路ベイエリア大交流プロジェクト

- ・ワールドマスターズゲームズ 2021 関西や大阪・関西万博を見据え、海上アクセスの整備やウォーターフロントの再整備等、ベイエリア一体となった交流圏を形成

人口対策

戦略目標Ⅱ 社会増対策

重点目標 4：自分らしく働ける兵庫をつくる

(1) 地元就業の促進

- ①段階的・体系的な職業教育の推進
 - ・小・中・高一貫したキャリア形成の取組の充実
 - ・地元との連携による実践的な職業教育の推進
 - ・産学官連携による高校生・大学生のインターンシッププログラムの充実
- ②地元企業との若者のマッチング強化
 - ・産学間連携による若者と地元企業とのマッチング強化
 - ・メディア等と連携した地元企業情報の発信強化
 - ・ものづくり分野における女性就業の促進(再掲)
- ③農林水産業の担い手育成
 - ・地域ぐるみでの新たな担い手の確保・育成
 - ・大規模経営体の育成や法人化、企業参入の促進による新規雇用の創出

(2) 第二新卒者などUJIターの促進

- ①効果的な情報発信
 - ・大学等と連携したUJIター情報の発信
 - ・民間求人サイトによる兵庫企業の情報発信
 - ・東京圏での第二新卒者向け企業説明会の開催

②県内就職及び定着の促進

- ・ふるさと起業・創業の促進
- ・採用力・定着力強化に向けた中小企業への支援
- ・兵庫型奨学金返済支援制度の充実

(3) 多様な人材の活躍推進

①外国人材の県内定着の促進

- ・外国人留学生と県内企業とのマッチング支援
- ・外国介護人材の受入体制の充実強化
- ・企業と外国人材双方への相談対応の充実
- ・地域ぐるみで生活を支援する仕組みの創出

②女性の雇用就業の支援

- ・ものづくり分野における就業促進
- ・女子学生と企業のマッチング支援
- ・ライフステージに応じた多様な働き方の普及
- ・テレワークやSNS等を活用したモデルの発信

③障害者の特性や能力に応じた社会参加の促進

- ・就労生活支援体制の充実
- ・短期職場体験や在宅ワーク推進モデルの推進など一般就労機会の拡大
- ・農福連携など福祉的就労の充実
- ・障害者雇用促進企業等への発注促進

(4) 企業立地・投資の促進（再掲）

(5) 起業・創業の更なる支援（再掲）

重点目標 5：豊かな文化が息づき、安全安心でにぎわいあふれる兵庫をつくる

(1) 芸術文化基盤を活かした芸術文化の振興

① 芸術文化が身近に感じられる地域づくり

- ・本物の芸術文化に親しむ機会の充実
- ・県民の芸術文化活動への支援
- ・国際的な芸術文化事業の展開

② 国内外の芸術家が集まるまちづくりの推進

- ・国際観光芸術専門職大学（仮称）等による若手芸術家の発掘・育成
- ・アーティスト・イン・レジデンスを核とした国内外アーティスト集積の促進

(2) にぎわいが感じられるまちづくりの推進

① 都市機能の充実・強化

- ・三宮再開発や県庁周辺再整備の機会を捉えた都心部の高次都市機能の集積
- ・都市計画マスタープランの見直し

② オールド・ニュータウン等の住宅地の再整備

- ・学生と住民との連携による地域活動の支援
- ・県営住宅を活用した学生シェアハウスの展開
- ・医療、福祉、子育て支援施設の立地推進

③ 商業機能の充実

- ・まちづくりと一体となった商店街の再編（再掲）
- ・空き店舗を活用した新規出店、事業継続支援（再掲）
- ・子育て支援施設の設置など、地域コミュニティの核としての機能発揮（再掲）

(3) 安全安心に暮らせるまちづくり

① 地域医療体制の充実

- ・機能分担、ネットワーク化による医療機関の再編整備
- ・周産期母子医療センターの体制強化
- ・子どもの急病等に対する相談体制の充実
- ・ドクターヘリの運航支援

② 体感治安の向上

- ・地域の自主的な防犯活動への支援
- ・地域への防犯カメラの設置促進
- ・地域での子ども・高齢者等の見守りの推進

(4) 防災・減災対策の総合的推進

① 南海トラフ地震対策や土砂災害・風水害対策等の計画的な実施

- ・南海トラフ地震等の防災・減災対策の推進
- ・洪水・高潮対策や土砂災害対策など、風水害対策の計画的推進
- ・防災庁（仮称）の設置促進、防災人材育成拠点の機能強化

② 地域防災力の向上

- ・自主防災組織の体制強化
- ・災害時要援護者対策の推進
- ・人と防災未来センターの充実など震災の経験と教訓の発信

(5) 生きる力を育む教育の推進

① 確かな学力の向上

- ・小・中・高・大の接続を重視した教育の推進
- ・先進的な教育を展開する魅力と活力ある高校づくり
- ・外国語教育、理数教育の充実
- ・プログラミング教育の推進

② 豊かな心を育成する体験教育等の推進

- ・兵庫型「体験教育」の更なる推進
- ・ふるさと意識を醸成する教育の推進
- ・震災の経験と教訓を活かした「兵庫の防災教育」の推進

③ 子どもたちの学習環境の充実

- ・ICT等の学習基盤や老朽化対策など修学環境の整備充実
- ・いじめ・不登校の未然防止、早期発見・対応の強化

(6) 豊かな環境の保全と創造

① 自然な感じられるまちづくりの推進

- ・自然再生等のプロジェクトの推進
- ・自然公園等を活かした自然とのふれあいの推進
- ・野生鳥獣の適切な保護・管理

② 都市緑化など快適なまちなみの保全

- ・都市部での緑化活動の推進
- ・多様な担い手による森づくりの推進
- ・里海再生の取組の推進

戦略目標Ⅲ 自然増対策 (子ども子育て対策)

重点目標 6：結婚から子育てまで希望が叶う兵庫をつくる

(1) 結婚のきっかけづくり

① 出会い・結婚支援の充実

- ・民間結婚相談所等との連携によるマッチング強化
- ・企業と連携した多彩な出会いの機会創出
- ・新生活の経済的負担の軽減

② 結婚を応援する気運の醸成

- ・ライフプランに関する意識の醸成
- ・家庭と仕事の両立を応援する企業への支援
- ・結婚・子育てが楽しいと思える意識の醸成

(2) 安心して子どもを産み育てられる環境の整備

① 妊娠・出産の不安解消

- ・妊娠や育児に対する相談体制の充実
- ・周産期医療、小児医療の充実
- ・助産師の技術向上や医師との連携支援
- ・不妊治療対策の推進

② 子育てや教育に係る負担の軽減

- ・保育・教育に係る経済的負担の軽減
- ・医療費負担の軽減措置
- ・ひとり親家庭等への支援

(3) 子育て応援社会の形成

①安心して働くことができる保育環境の充実

- ・保育所や認定こども園等保育の受け皿の拡大
- ・保育人材の更なる確保
- ・病児・病後児保育等緊急時の子育て支援の充実
- ・ワーク・ライフ・バランスの推進、多様な働き方の導入

②子育て家庭を見守る地域づくり

- ・子育て親子が集い相談や情報交換できる場づくり
- ・放課後に子どもが安心できる場の確保
- ・「子ども食堂」など企業、NPO、地域コミュニティ等との協働による子育て支援の推進
- ・3世代近居など高齢者の経験や知識を活かした子育ての促進

戦略目標Ⅳ 自然対策 (健康長寿対策)

重点目標 7 : 生涯元気に活躍できる 兵庫をつくる

(1) 健康長寿社会づくりの推進

①疾病の早期発見・早期治療の推進

- ・自らの健康チェックや生活習慣の改善に取り組める仕組みの構築
- ・特定健診・特定保健指導の受診促進
- ・がんの早期発見の推進
- ・企業と連携した健康づくりの推進
- ・ライフステージに応じた「がん」との共生支援

②生活習慣の改善促進

- ・ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- ・地域スポーツ施設の充実
- ・障害者スポーツのすそ野の拡大
- ・世代に応じた食育実践活動の展開
- ・フレイル予防対策の充実

(2) 高齢者等誰もが安心して暮らせる環境整備

①認知症対策の推進

- ・認知症の早期発見・早期対応の取組の充実
- ・認知症医療体制の充実
- ・認知症の人が安心して暮らせる地域支援体制の強化
- ・若年性認知症に対する総合的な支援

②高齢者の地域生活を支える施策等の推進

- ・定期巡回・随時型対応訪問介護看護の拡充など在宅医療・介護連携体制の構築
- ・地域包括支援センター機能強化
- ・地域における介護予防・生活支援サービス等の確保
- ・サ高住など高齢者の住まい確保

(3) 元気高齢者の社会参加の促進

①高齢者の社会参加の促進、就労の支援

- ・高齢者の就労を支援する相談体制の整備
- ・企業の掘り起し、マッチング支援

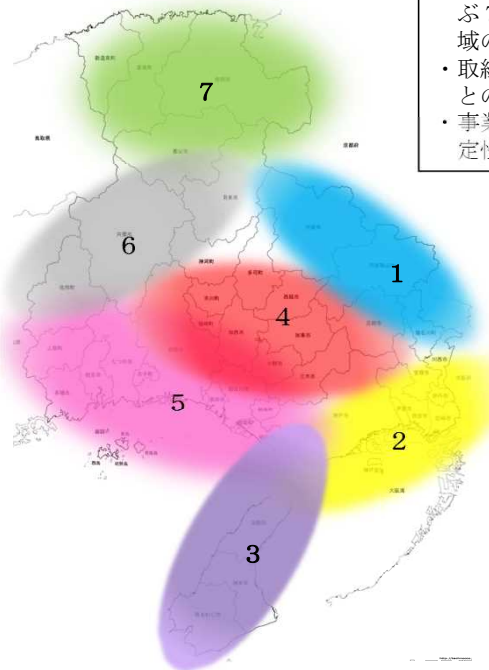
- ・地域ニーズに応じたコミュニティ・ビジネス立ち上げ支援
- ・高齢者の生きがいづくりや地域支援活動への参加促進
- ・高齢者の生涯学習の推進

地域プロジェクト素案

- ・地域の強みや特性を活かす視点から、複数の地域を結ぶ7つのゾーンを設定。民間企業、住民、行政等が地域の将来像を共有し、地域発の先導的な取組を実施。
- ・取組に当たっては、他のゾーンの地域資源や近隣府県との連携など、ゾーンからはみ出しも視野に入れる
- ・事業の進捗は、ゾーンの特性を反映した定量指標及び定性指標で評価・検証

【地域プロジェクト一覧】

1	二地域居住・都市農村交流推進プロジェクト（丹波～阪神北部～神戸北部）
2	阪神・淡路ベイエリア大交流プロジェクト（阪神～神戸～淡路北部）
3	令和の「御食国」再興「食文化都市」プロジェクト（淡路～明石～東播磨）
4	じばさん播磨「担い手創出・産地活性化」プロジェクト（北播磨～姫路～たつの）
5	航空宇宙等先端産業創出プロジェクト（東播磨～西播磨）
6	1日生活圏を維持する兵庫楽居生(ライフ)プロジェクト（西播磨～但馬南部）
7	但馬ブランドを世界に直接つなげる新たな働き方実践プロジェクト（但馬地域一円）



2 阪神・淡路ベイエリア大交流プロジェクト（阪神～神戸～淡路北部）

【取組の方向性】

ワールドマスターズ2021関西や大阪・関西万博、IRなど関西へのインバウンドの増加を見据え、歴史・芸術文化施設の集積やUSJなどの集客力を活かし、内外からの誘客を兵庫に取り込むため、海上アクセスの整備やウォーターフロントの再整備等、ベイエリア一体となった交流圏を形成する。

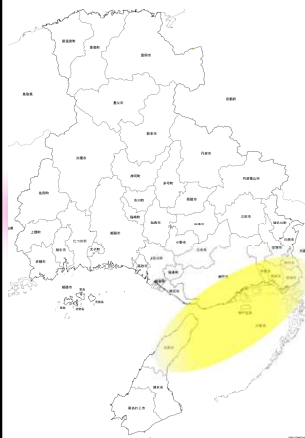
【活かすべき地域の強み】

- ・世界に誇る芸術文化施設の集積(宝塚歌劇、県美、芸術文化センター等)
※将来的には国際観光芸術専門職大学との連携を視野
- ・明治から昭和にかけて大阪・神戸間で花開いた阪神間モダニズム
- ・近距離にある大型集客施設(USJ、夢洲に計画中のIR等)
- ・自然環境の再生(六甲山、尼崎21世紀の森、淡路夢舞台等)
- ・インフラ施設の充実(神戸空港や尼崎西宮芦屋港、神戸港等)

<2030年イメージプロジェクト>：体験ツーリズムプロジェクト

【想定される指標】

- 定量指標：観光関連産業のGDP・雇用者・宿泊日数 等
- 定性指標：インバウンド滞在者の満足度 等



1 二地域居住・都市農村交流推進プロジェクト（丹波～阪神北部～神戸北部）

【取組の方向性】

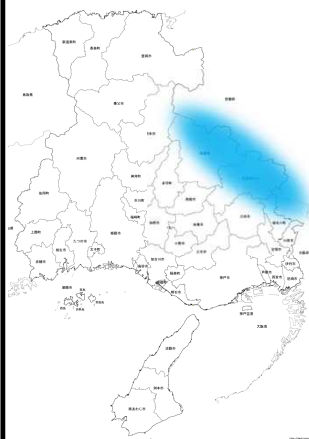
都市近郊ながら原風景とも言える田園風景が残る強みを活かし、週末に農業を楽しむ生活や、地元食を楽しむアグリツーリズム、ふるさと意識を醸成する学びの場など、都市農村交流・二地域居住の拠点を形成する。

【活かすべき地域の強み】

- ・JRで一時間程度の「都市に近い田舎」
 - ・ブランド力を有する農産品(丹波黒大豆、丹波栗、丹波山の芋等)
 - ・篠山城跡や黒井城跡等、丹波竜、陶芸美術館等の観光資源
 - ・古民家を改修した宿泊施設やレストラン
 - ・大学のテラトキャンパス、篠山東雲高校(フードインスティテュート類型) など
- <2030年イメージプロジェクト>：体験ツーリズムプロジェクト、多地域居住プロジェクト

【想定される指標】

- 定量指標：1経営体当たりの農業算出額、高校生の就農者数 等
- 定性指標：地元の農林水産業に活気が感じられると思う人の割合 等



3 令和の「御食国」再興「食文化都市」プロジェクト（淡路～神戸～東播磨）

【取組の方向性】

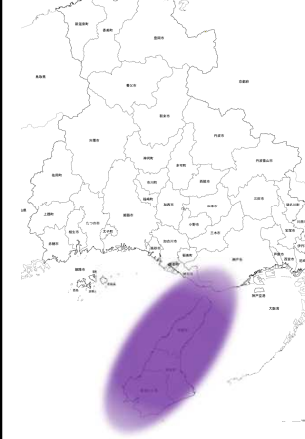
無形文化遺産である「和食」が世界で好評を博しているなか、御食国と呼ばれた淡路島の多彩な食材や食文化の発信、世界で活躍できる若手料理人材の育成、地域ならではの食を楽しむフードツーリズムの推進等、食を核とした地域活性化を図る。

【活かすべき地域の強み】

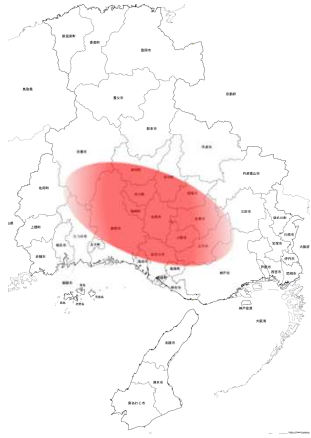
- ・淡路島たまねぎやレタス、3年とらふぐなどの食材のほか、神戸牛や明石鯛等、近接する地域にある競争力の高い食材の存在
 - ・淡路鳴門自動車道など四国や神戸・大阪からのアクセスの良さ
 - ・北淡路でのリゾート型レストラン計画や食の拠点づくりに向けた動き
- <2030年イメージプロジェクト>：御食国ひょうごプロジェクト、体験ツーリズムプロジェクト

【想定される指標】

- 定量指標：地域外からの訪問者の滞在時間の伸び 等
- 定性指標：夜までまちの活気が続いていると思う人の割合 等



4 じばさん播磨「担い手創出・産地活性化」プロジェクト（北播磨～姫路～たつの）



【取組の方向性】

首都圏デザイン学校との連携による若手デザイナーの育成や、コンパコ、高田賢三など兵庫出身の世界的デザイナーとのコラボレーションによる製品開発、体験ツーリズムの推進など、外部の人材やアイデアを取り入れ地場産業の新たな付加価値を生む。

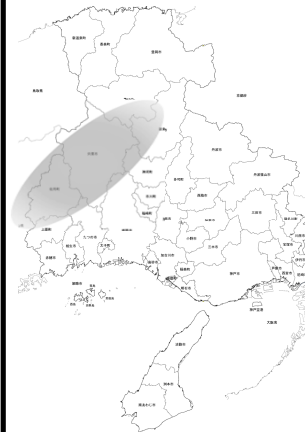
【活かすべき地域の強み】

- ・播州織や皮革、杉原紙・三木金物等の地場産業、市川町のアイアン製造、酒造好適米山田錦の日本トップシェア産地
 - ・県立森林大学校による林業人材の育成
 - ・UJIタウンの若手デザイナー活躍、姫路工業高校や西脇高校との連携
 - ・ネスタリゾート、東条湖ランド等のリゾート施設、ゴルフ場の集積
- <2030年デザインプロジェクト>：起業立県実現プロジェクト、体験ツーリズムプロジェクト

【想定される指標】

定量指標：地場産業出荷額、若手デザイナー創出数、観光宿泊日数 等
定性指標：製品・技術・ブランド力をもった地元企業があることを知っている人の割合 等

6 1日生活圈を維持する兵庫楽居生(ライフ)プロジェクト（西播磨～但馬）



【取組の方向性】

人口減少が進み生活サービス機能の維持が困難な地域において、空き校舎等の既存建物に活用等による店舗を核に、ドローンによる貨物配達、自動運転等を使った日常の足の確保、大学生との連携などを通じて、地域コミュニティを再構築し、生活圈を維持する新たなモデル事業を実施する。

【具体例】イトイコーナーや地元直売所のある省人コンビニ（日中は地域おこし協力隊等が営業、夜は無人）、ガリンスカウト、遠隔診療・遠隔授業等

【活かすべき地域の強み】

- ・空き店舗や空き校舎など活用できるインフラの存在
 - ・神戸市長谷での「ふれあいマーケット」の取組
 - ・地域再生大作戦での県内大学との連携
- <2030年デザインプロジェクト>：人生100年プロジェクト、次世代移動・買い物プロジェクト、多地域居住プロジェクト

【想定される指標】

定量指標：集落の人口数、地域に入った大学生の人数 等
定性指標：住んでいる地域に住み続けたい人の割合 等

5 航空宇宙等先端産業集積プロジェクト（東播磨～西播磨）



【取組の方向性】

金属等素材・加工産業が集積するひょうごメタルや、SP-8・富岳・望遠鏡なゆた・金属新素材研究センター等の科学技術基盤を活かし、航空宇宙産業への進出や企業・大学との共同開発、関連産業へのスピノを促進するとともに、小中高大接続による理系人材の育成や高度人材の県内集積・定着を図る。

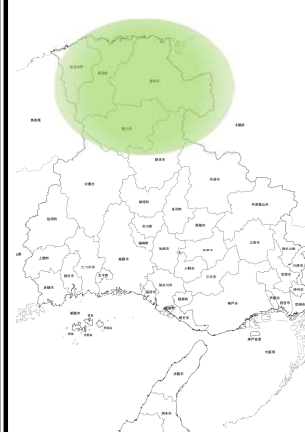
【活かすべき地域の強み】

- ・播磨から神戸の瀬戸内海臨海に延びる金属等素材・加工企業集積
 - ・関西航空機産業プラットホームの設置
 - ・金属新素材研究センター、播磨科学公園都市のSP-8・神戸のスパコン富岳など東西の科学技術基盤の集積
 - ・県大産学連携・研究推進機構、自然科学研究所(西はりま天文台)
- <2030年デザインプロジェクト>：起業立県実現プロジェクト、先端産業創造プロジェクト、未来創造人材育成プロジェクト

【想定される指標】

定量：航空宇宙等産業の出荷額・参入企業数、国内外の企業・大学の開発プロジェクト数、理系学生の県内就職者率 等
定性：製品・技術・ブランド力をもった地元企業があることを知っている人の割合 等

7 但馬ブランドを世界に直接つなげる新たな働き方実践プロジェクト（但馬地域）



【取組の方向性】

山陰海岸ネットワーク、世界遺産を目指す日本遺産「但馬牛システム」、コウトリの野生復帰、国際観光芸術専門職大学の開校等、世界に誇る但馬ブランドを活かし、世界と直につながることで、雇用の創出や更なる供給力の向上を果たすため、演劇等を楽しみながら働くワーケーションやリモートワーク、ICTを活用した大規模畜産経営等、空間や時間に縛られない新しい働き方を実践する。

【活かすべき地域の強み】

- ・自然を活かした観光資源(温泉、スキー場、マリンスポーツ、ジパーク等)
 - ・交通基盤(但馬空港や北近畿自動車道、山陰近畿自動車道等)
 - ・国際観光芸術専門職大学(学校やピッコ劇場等との連携)
 - ・但馬牛やズリカニ、コウリ育む米など、競争力のある農畜産漁業
 - ・ITカリス(リコー代表取締役小田垣氏)によるサテライトオフィスの立地
- <2030年デザインプロジェクト>：人生100年プロジェクト、御食国ひょうごプロジェクト、体験ツーリズムプロジェクト、多地域居住プロジェクト

【想定される指標】

定量指標：但馬牛の大規模繁殖農家数、但馬空港の乗降客数 等
定性指標：しごとと自分の生活の両立ができていない人の割合 等